

平成16年度 護持会決算書

収入の部

項 目	本年度予算	本年度決算	増 減	摘 要
護 持 会 費	2,400,000 円	2,414,000 円	14,000 円	
繰 越 金	12,085	12,085	0	前年度より
雑 収 入	10,000	45,022	35,022	水道料 (墓地工事)
合 計	2,422,085	2,471,107	49,022	

支出の部

項 目	本年度予算	本年度決算	増 減	摘 要
寺院維持費	円	円	円	
1. 本 山 費	850,000	841,980	△ 8,020	本山負担金
2. 修 営 繕 費	100,000	224,912	124,912	倉庫屋根工事、電気工事、ガラス修理
3. 維 持 費	360,000	372,388	12,388	電話電気水道料
4. 保 険 費	160,000	153,899	△ 6,101	火災・厚生
寺院経営費				
1. 会 議 費	60,000	48,900	△ 11,100	総会費・茶菓代
2. 総 務 費	60,000	39,770	△ 20,230	郵信代 (寺報発送)
3. 管 理 費	300,000	273,086	△ 26,914	庭園整備費、台風倒木代
4. 雑 費	30,000	10,000	△ 20,000	見舞金
5. 寺 報 費	110,000	130,200	20,200	寺報32号～33号、封筒印刷
6. 積 立 金	200,000	200,000	0	漁協へ定期積立金
7. 予 備 費	192,085	35,000	△157,085	登記料・取得税
合 計	2,422,085	2,330,135	91,950	
残 金		140,972		次年度へ繰越

提出された決算書並びに諸帳簿を慎重に監査した結果正当と認めます。

監 査 磯 崎 孝 一 ㊟ 三 浦 富 男 ㊟ 千 葉 正 吉 ㊟

此錯彼錯

▼三閉伊一揆「南部義民伝」を著した伊藤清太郎直筆の写しを読む機会を得た。著者は気仙代官所御足輕組小頭として、当時の大事件の警戒に

あたった人物である▼維新後教員をしていたが、明治四十三年八十三歳のとき著したという▼野田通りで立ち上がった一揆は、嘉永六年六月六日越境して唐丹川原へ集結したのは八千人▼当時の村の人口は、この事件の二十七年後、明治十三年の調査では、人口二二八九人、四三五世帯。村は四倍の人で溢れたことになる▼その日の夕食から配給しているが、奥四ヶ浜中の備荒蔵の米を揃いて、一日三十石を炊き出している▼一揆衆を家に泊め軒を貸し、暖かく接待したご先祖のボランティアがあったことを忘れてはならない▼この時、浦賀に黒船が来航。(大天)